情熱は決して止まらない
CHALLENGE SPIRITS CAN'T BE STOPPED.

# 「ただいま！」スケートへの愛を強さに変え、再び、世界の舞台で戦う

フィギュアスケート選手
経営学部 3年次
三原（みはら） 舞依（まい）さん
神戸市出身。シスメックス所属。2017年、四大陸選手権優勝。「氷上のシンデレラ」と呼ばれ、数々の競技会で活躍。2019-2020シーズンは、体調不良により休養。2020年10月に復帰を果たし、北京冬季五輪をめざす。

写真：アフロスポーツ

Interview 01

**昨年11月のNHK杯国際フィギュアスケート女子シングルフリー。コスチュームに身を包んだ三原舞依さんは、ミスのない丁寧な演技で観客を圧倒。131・32点という高得点を叩き出し、フリー3位、総合4位という好成績を収めました。さらに12月には全日本選手権にも出場するなど、その復活を国内外に印象づけました。休養によるブランクを乗り越えた今、何を思うのか。これまでの歩みや今後の目標についても、お話を聞きました。**

## 浅田真央さんに憧れて、この道へ。夢中でチャレンジした日々

テレビで見た浅田真央さんの演技が、スケートに憧れたきっかけです。どうしても滑ってみたくて、小学3年生のときにポートアイランドのフィギュアスケートリンクに連れて行ってもらいました。そのとき、リンクの真ん中で開かれていた教室でクルクル回っていた可愛い女の子が、今では大切な友人であり、ライバルでもある坂本花織さん（神戸学院大学、シスメックス所属）です。何度か通ううちに、スケートへの思いはますます強くなり、スケート教室の先生に、「教室に入れてください！」と勇気を出してお願いしました。念願のレッスンに通い始めたら、もう、楽しくて、楽しくて。さまざまな課題に挑戦し、ジャンプやスピンも次々にできるようになりました。思いっきりジャンプして派手に転倒したときは、「頭をぶつける子は、あなたぐらいよ」とあきれられたほどです（笑）。それぐらい怖いもの知らずで、練習に夢中でした。

## 満場の拍手と歓声にリンクに戻った喜びがあふれる

2019年春の競技会を最後に、体調を崩して休養に入りましたが、その間も「スケートが好き」という気持ちは揺らぎませんでした。氷の上に立てないからこそ、「私からスケートをとったら何も残らない。スケートがあるから、自分らしくいられる」と自覚できたのだと思います。テレビで全日本選手権を見ているときには焦りを感じたものの、コーチや家族、ファンのみなさんに支えられました。心のこもったファンレターを読みながら、「必ず、戻る」と誓ったことも数え切れません。ようやく練習を再開できるようになっても新型コロナウイルスの影響でリンクに立てない日が続きましたが、自分にできる柔軟や体幹トレーニングを続けようと決め、一歩ずつ前に進むことができました。

およそ2か月の本格的な練習を経て、2020年10月の近畿選手権大会で約1年半ぶりに公式戦に復帰しました。それから少しずつ技の難度を上げ、NHK杯のフリーでは、冒頭の3回転＋3回転も含めて大きなミスなく滑り切ることができました。プログラム曲「フェアリー・オブ・ザ・フォレスト&ギャラクシー」では、後半のステップシークエンスで観客のみなさんの手拍子が聞こえ、胸が高鳴りました。エンディングのスピンを終えて客席を仰ぐと、新型コロナウイルスの感染予防のため声が出せない分、バナーを大きく振ってくださったり、立ち上がって全力で拍手してくださったり…。そんな観客のみなさんの姿が目に入り、思わず涙があふれました。「ただいま！」「ありがとうございます！」何度言っても足りないほど感激しました。リンクに帰ってきた喜びを全身で感じた、忘れられない瞬間です。

## キャンパスでの学びも糧に北京冬季五輪の大舞台へ

小学生のころから、コーチに「スケートだけに集中していたら、引退した後に何も残らないよ」と教えられていたこともあり、私にとって学業との両立は必ず成し遂げたいことでした。経営学部に進学したのは、「人の役に立ちたい」という思いから。経営学を通じて社会や経済の仕組みに触れ、どうすれば世の中に貢献できるかを具体的に考えるようになりました。授業だけでなく、緑豊かなキャンパスで友人たちとおしゃべりしたり、食堂でお昼を食べたりする時間からも多くのことを学んでいます。仲のいい友人たちと語り合ううちに、人の心を動かすのは、「楽しさ」だと気づいたことも、その一つ。何よりもまず自分自身が楽しんで滑ることを大事に、人々を感動させる表現力を磨こうとする姿勢につながっています。

2021年は、いよいよ五輪シーズン。新型コロナウイルスが終息し、翌年2月の北京冬季五輪が無事開催されることを祈るとともに、その舞台に代表として立てるよう、技のレベルアップに取り組んでいます。体調不良による2度の休養は、神様が「壁を乗り越えて強くなれ」と私に与えてくれた試練だと受け止めています。つらいこともありましたが、心身ともにたくましくなりました。この経験を糧にアスリートとしてさらに成長し、五輪という大舞台で、これまで私を支えてくれた方々に恩返しするのが目標。そして、新型コロナウイルスに苦しんだ世界中の人々に、少しでも希望と勇気を与えられる演技をしたいと思います。

情熱は決して止まらない
CHALLENGE SPIRITS
CAN'T BE STOPPED.

Interview 02

# サッカー部初のJリーガーへ。主将として、創部史上初の全国大会出場も果たす

J2リーグに所属するプロサッカーチーム「ファジアーノ岡山」への加入が決まった木村さん。主将としてサッカー部を全国大会にも導きました。二つの創部史上初の快挙を成し遂げた今、さらに大きな夢を見つめています。

## 地道なアピールが実を結びJリーガーへの扉を開いた

プロサッカー選手は、幼いころからの夢でした。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で試合が減り、アピールする機会が少なくなりましたが、サッカー部の柳川雅樹監督の助言もあり、プレイ動画を作成するなど早くからアピールの準備に取り組んでいたため、動画を各チームに送ることにしました。その動画がファジアーノ岡山のスカウトの方の目に止まり、大学や試合に何度も視察に訪れてくださり、その後、チームへの練習参加を経て加入が内定しました。元Jリーガーの監督だからこその効果的な助言と親身なサポートのおかげで夢を実現できたと感謝しています。ファジアーノ岡山に加入後は、一日も早く試合に出場して結果を出すのが目標です。「ドリブルで打開し、ゴールを決めるアタッカーとして活躍してほしい」という期待に応えられるよう全力を尽くします。

## コロナにめげずトレーニング。努力と戦術で強いチームに

サッカー部では、主将としてチームづくりに取り組んできました。最も大切にしたのは、自由に意見交換できるフランクな雰囲気と、一人ひとりが課題を自覚して取り組む意識の高い練習の両立です。緊急事態宣言下も全員でZoomを使った筋トレや体幹トレーニングを続け、モチベーションや技術を落とさずに乗り越えることができました。これらの努力と監督の優れた戦術が実り、今年1月に開催された※全国大会「#atarimaeni CUP サッカーができる当たり前に、ありがとう!」に創部以来、初めて出場。ベスト4進出は果たせませんでしたが、関西勢で唯一3回戦に進み、全国に甲南大学サッカー部の存在を強く印象づけました。

卒業後は、ファジアーノ岡山のJ1昇格を第一目標に、将来的には海外でのプレイも視野に入れたいと考えています。マネジメント創造学部で養ったプレゼンテーション力など大学での学びを生かし、サッカー界での活躍をめざします。

※全国大会「#atarimaeni CUP サッカーができる当たり前に、ありがとう!」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった「総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」と「全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)」の両大会の出場資格を合わせた2020年度のみの特例大会

体育会サッカー部主将
J2ファジアーノ岡山加入内定

マネジメント創造学部 4年次
木村(きむら) 太哉(たかや)さん

父の転勤に伴い、大阪・名古屋・福岡・東京・北海道で育つ。各地の恩師からプロ第一歩の祝福が届く。



情熱は決して止まらない
CHALLENGE SPIRITS
CAN'T BE STOPPED.

Interview 03

# NPO法人の認証取得は第一歩。起業マインドと行動力でボランティア活動を変革する

2020年8月、ボランティア団体「palafool(パラフル)」は、NPO法人の認証を取得。140人のメンバーを抱え、多彩な活動を展開するまでに成長しました。「神戸を元気にしたい」と語る宮内さんの挑戦は続きます。

## 人の役に立つ、面白いことを!失敗をバネに信頼を育む

ボランティア団体「palafool(パラフル)」は、知能情報学部に通う友人と二人で立ち上げた学生サークルです。1年次の夏、「人の役に立つ、新しくて面白いことをしよう!」と意気投合。すぐに動き出しましたが、思いとは裏腹に失敗が続きました。夏祭りの企画は、地域の方から不審に思われてしまい頓挫…。実績を重ねる大切さを痛感し、地道な清掃活動から始めました。すると次第に応援してくださる方が増え、地元のNPO法人の方々とも出会い、実践的なノウハウを学ぶことができました。現在は「神戸を元気にする」をテーマに高齢者支援や動物愛護活動にも取り組んでいますが、原点は、子どもたちの居場所づくりです。イベント中の様子を写真付きのメールで欠かさず報告するうちに、保護者のみなさんと信頼関係を築くことができました。今では、登録している子どもの数は120人を超え、募集と同時に定員を超える企画も少なくありません。

## ボランティアを当たり前の職業に。卒業生とのコラボも構想中

サークル設立当初から、ボランティアを当たり前の職業にしたいと考えてきました。NPO法人の認証取得は、そのための第一歩です。ハードルの高い認証を得たおかげで信頼度が高まり、助成金の申請など活動資金を得る方法も広がりました。新型コロナウイルスによる外出自粛期間中は、ボランティア団体と企業に声をかけ、オンライン・プレゼンテーション大会を開催するなど在宅ならではの企画にも挑戦。さらに今年は、すでに4店舗ある子ども食堂を10店舗まで増やすとともに、子どもたちが集まれる「みんなの家」を軌道に乗せる予定です。ボランティア活動に起業マインドで取り組む私にとって甲南ほど恵まれた環境はありません。「ベーシック・キャリアデザイン」の授業では、各界で活躍する卒業生の方々から経営者に必要な覚悟を学びました。卒業後もパラフルを仕事に、卒業生のみなさんとのコラボレーションを実現したいと思います。

NPO法人・学生ボランティア団体
「palafool」代表

経営学部 2年次
宮内(みやうち) 輝(ひかる)さん

起業は、中学時代からの夢。創立者平生釟三郎先生の「常ニ備ヘヨ」が座右の銘だ。「M-1グランプリ」に出場経験あり。